

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月10日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21330201

研究課題名（和文） 『日本美術・西洋美術101』を生かした鑑賞学習の授業モデル及び視覚教材の開発

研究課題名（英文） Development of teaching material and visual models of learning art appreciation utilizing the "101 Japanese art and Western art"

研究代表者

新関 伸也 (NIIZEKI SHINYA)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号：80324557

研究成果の概要（和文）：『日本美術 101 鑑賞ガイドブック』及び『西洋美術 101 鑑賞ガイドブック』に掲載されている作品や作家を元に美術鑑賞の授業モデル及び視覚教材を開発し、実践研究を行った。授業モデルは「対話」「比較」「アートゲーム」「混合」「ICT」の5種類であり、それらを保育園、小・中学校、高等学校、大学で実践した。これらの成果は、公開研究会による成果発表や映像付き（DVD）の「美術鑑賞授業題材集」としてまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：We developed a teaching model of art appreciation and visual aids based on works and authors that are listed in the "Guidebook of Japanese Art Appreciation 101" and "Guidebook of Western Art Appreciation 101". And we carried out practical research. Model classes categorized into 5 such as "Dialogue", "Comparison", "Art games", "Mixed", and "ICT" were carried out at nursery schools, elementary and junior high schools, high schools, and the universities. We published these results at the public lecture and made DVD of "Teaching Materials of Art Appreciation"

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2010年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2011年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
年度			
総計	11,900,000	3,570,000	15,470,000

研究分野：美術科教育

科研費の分科・細目：教育学、教科教育学

キーワード：芸術諸学、美学、美術史、教育学、教科教育、鑑賞、学校教育

1. 研究開始当初の背景

図画工作科・美術科において学習指導要領に「鑑賞教育の充実」が謳われ、また、1990年代より米国を中心とした美術鑑賞の実践事例や美術館と学校との連携による美術鑑賞実践なども増えており鑑賞教育への関心

は高まっている。

しかし、小中学校の教員に対して行った鑑賞学習実態調査（2003年「図画工作科・美術科における鑑賞学習指導についての調査報告－2003年度全国調査結果」日本美術教育学会、研究代表者編集）によれば、鑑賞学

習が正しく理解され、また実践されているとは言いがたい状況が把握された。その要因として以下の三点が明確になった。

(1)内的要因－美術鑑賞学習体験の不足に起因する鑑賞学習指導への教師の自信の無さ。

(2)鑑賞学習への誤謬－美術鑑賞学習が主知的な学習であり創造性の育成を阻害するものという認識。

(3)外的要因－近隣に美術館等の鑑賞施設がない、学校に美術鑑賞教育のための機器や設備と鑑賞用映像資料や複製図版などが備わっていないなどの学習環境や条件の差異。

さらに、鑑賞教育の課題として以下の三点にまとめられる。

(1)現職教育の必要性－教師の美術鑑賞学習指導への自信、意欲をいかに向上させるか。

(2)美術鑑賞学習への誤謬の解消－美術文化を享受理解し、継承すると共に、新しい文化の創造をしていくために、美術鑑賞学習が表現学習と不即不離な関係にあることが理解されること。

(3)美術鑑賞学習の内容と方法の保障－多様な学習条件や環境の中で、学習内容の日本・東洋・西洋のバランスを再検討すると共に、児童・生徒へ鑑賞学習内容が最低限保障されること。

これらの課題に応えるための一歩として従来の美学・美術史を専門とする著者による学術書ではなく、現職教師や教職をめざす学生が美術鑑賞の学習指導をする上で最低限必要な基礎的な事項を、美術教育学の立場から検討して編纂した『日本美術 101 鑑賞ガイドブック』及び『西洋美術 101 鑑賞ガイドブック』(神林恒道・新関伸也編著)を2008年に三元社より出版した。(以下、両著を合わせて『日本美術・西洋美術 101』と呼ぶ)

次の課題として、これらをベースにした美術鑑賞学習の具体的な指導内容と方法について検証する実践を行い、幼児をはじめ小・中学校、高等学校、大学までを視野に入れた美術鑑賞の授業モデルを考案し、その授業に対応した視覚教材(印刷物や映像資料等)を開発する必要があると考えた。また、美術鑑賞の授業モデルを理解するために教師向けに映像資料を作成する必要があると考えた。

2. 研究の目的

(1)『日本美術・西洋美術 101』で取り上げた作品を題材とした鑑賞授業を構想し、具体的な指導内容を検討し、題材開発を行う。

(2)上記(1)の指導内容にふさわしい鑑賞授業の指導法を実践的に検討し、具体的な授業モデルを開発する。

『日本美術・西洋美術 101』に掲載されている作品や作家を生かした美術鑑賞の具体的な授業モデルの開発とそのための魅力的で

実用的な美術鑑賞のための視覚教材の開発を目標とした。

考案した授業モデルや開発した視覚教材の有効性を検証するために、本研究チームのメンバーが所属する各大学の附属学校・園や公立学校・保育所等において、授業実践を通じた研究を行う。

さらに、これらの授業モデルごとに実践を美術鑑賞題材集としてまとめるだけでなく、視覚資料として付録のDVDも編集作成する。

一方、当該分野における本研究の学術的特色・独創的な点及び予想される結果と意義として、次の3点が挙げられる。

第1に芸術学、美術教育学、それぞれのプロパーの共同によるチーム研究であること。

第2に、小中学校の教員をはじめ多様な校種や場で美術教育を実践する会員を持つ日本美術教育学会の特色を生かして、教育現場との連繋による実践研究を行うこと。

第3に、美術鑑賞の学習において対象外であった「書」や「書画」扱い、それらを題材として授業モデルが考案されることは、漢字文化圏である東アジア諸国が共有する芸術文化の視点を獲得する起点となる。

3. 研究の方法

まず、『日本美術・西洋美術 101』の2冊に収録された作品を題材とした鑑賞学習の構想を練る。これと平行して、代表的な掲載作品の現地調査を行い、掲載情報以外の知見を得る。

授業の構想にあたっては、発達段階に応じて、幼児段階から小・中学校、高等学校、大学や現職教育向けの指導内容を考える。その際に、教育現場の研究協力者と連携して鑑賞学習題材開発をする。題材開発、つまり授業モデルとしては、「対話型」「比較」「アートゲーム」等の美術鑑賞学習の方法を念頭に置く。

次に、作成した鑑賞の授業モデルを、教育現場で、その有効性や課題を実践的に検証し、まとめる。その際に、教師向けの映像資料を作成するために専門の撮影技術者に依頼する。

最後に、各種の授業モデルを実践した後、公開研究会を行うと共に、研究の成果を『日本・西洋美術 101 鑑賞ガイドブック』を活用した鑑賞授業題材集(映像資料DVD付)と題して、冊子を作成する。作成した成果物は広く美術教育関係者に配布し、美術鑑賞授業の普及に役立ててもらおう。

4. 研究成果

(1)平成21年度(研究会を6回開催)

研究分担に応じて美術鑑賞の「対話型」「比較」「アートゲーム」や様々な美術鑑賞学習方法の理論と実践事例の収集、鑑賞授業モデ

ル開発で重要となる視覚教材のための情報収集を重点的に行った。

また、『西洋美術 101 鑑賞ガイドブック』に掲載された美術作品を所蔵する米国（ニューヨーク、シカゴ）、欧州（ドイツ、オーストリア）の美術館調査を行い、著書図版との色彩の相違や描画材料、肌合い、展示状況などの詳細を把握し、また可能な場合には美術館学芸員に鑑賞教育についてのインタビューを実施した。調査では展示室での作品の位置づけや展示の文脈、キュレーションコンセプト、鑑賞者の視点からの展示状況、美術館内における他の作品との関係、授業モデル開発のためのアイデアなど、共通の観点で調査するためのワークシートを作成して、利用した。

また、視覚資料作成の参考とするために調査した美術館において、作品カタログはもとより子ども向けの作品解説リーフレットや鑑賞ツアー、ワークショップの資料、作家や作品のDVD資料なども美術館ショップで購入収集した。

これらの調査結果、著書『西洋美術 101 鑑賞ガイドブック』の記述内容をさらに補充、深化する知見を得ることができた。

また、同様に国内においても調査を行い同様の結果を得ることができた。

(2)平成 22 年度（研究会を 7 回開催）

『日本美術・西洋美術 101』に掲載されている作品にもとづき、鑑賞学習の方法である「アートゲーム」「対話型鑑賞」「比較型鑑賞」等の鑑賞モデルの理論研究及び実践のための題材開発を行った。

これらの鑑賞題材開発は、それぞれの研究分担者に依頼された幼、小、中学校の研究協力者と共に行い、そこで開発した題材を各教育現場で実践し、映像記録とするためにビデオ撮影を行った。

なお、これらのビデオ撮影は映像の質を担保すると共に、視覚教材として編集するために、専門の撮影業者に依頼した。その結果、優れた記録映像を保存することができた。

また、題材開発においては、ワークシートの開発やプレゼンによる映像資料作成、アートゲーム用のかかるた作成はもとより、電子黒板や「Google・アート・プロジェクト」を活用した鑑賞学習の可能性を探るとともに、携帯情報端末を用いた鑑賞学習教材の開発を試みるなど、新しい鑑賞学習の可能性を探るための基礎的な研究を行った。

(3)平成 23 年度（研究会を 7 回開催、公開研究会を含む）

前年度に引き続き「アートゲーム」「対話型鑑賞」「比較型鑑賞」等の鑑賞モデルの理論研究及び実践のための題材開発を行った。

それぞれの研究分担者に依頼された幼、小、中学校の研究協力者と共に開発した題材を各教育現場で実践し、ビデオ撮影を行った。

幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、大学において撮影したビデオ映像は、授業用映像資料として活用できるように、動画にテロップを加えるなどの編集作業を行った。また、それらの映像鑑賞資料に併せて、背景となる美術鑑賞理論や指導案、実践後の知見や研究の成果をまとめた『日本・西洋美術 101 鑑賞ガイドブック』を活用した鑑賞授業題材集（映像資料 DVD 付）を作成した。

10 月には、研究成果公開研究会（京都国立近代美術館）を開催して、3 年間の成果を広く周知するとともに、ゲストスピーカーや聴衆から意見をいただいた。

なお、年度末に本研究の集大成として 3 年間にわたる研究を「科研成果報告書」としてまとめ、印刷製本した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

- ① 松岡宏明、対話型鑑賞と対象作品についての再考、美術教育、日本美術教育学会、査読有、第 296 号、2012、pp. 26-32
- ② 赤木里香子、“つながる力”をともに育てる美術館と学校—地域からの、地域への発信—、美術教育、日本美術教育学会、査読無、第 295 号、2011、pp. 70-72
- ③ 赤木里香子、山口健二、文化遺産・文化財に親しむための美術館ワークショップと鑑賞支援、岡山大学ユネスコチェア（持続可能な開発のための研究と教育）、平成 19・20・21 年度総合報告書、岡山大学ユネスコチェア事務局、査読無、2010、400-403

〔学会発表〕（計 6 件）

- ① 新関伸也、鑑賞の授業モデルと題材開発の研究、美術科教育学会、新潟大学、2012. 3. 27
- ② 松岡宏明、未分化な幼児期における表現・鑑賞指導の一展開、日本美術教育学会、同志社大学、2011. 8. 20
- ③ 大橋功、多様な学習形態に対応した鑑賞学習コンテンツの開発について—携帯端末利用の課題と展望—、日本美術教育学会、同志社大学、2011. 8. 20
- ④ 新関伸也、美術教育のアーカイビングとライティングリサーチⅢ—日本美術教育主要文献解題—、大学美術教育学会、宮城教育大学、2011. 9. 24
- ⑤ 新関伸也、鑑賞の授業モデルと視覚教材開発、美術科教育学会、富山大学、

2011. 3. 27

- ⑥ 大橋功、美術鑑賞教育におけるデジタル教材開発と C-learning 活用－iPad の導入で広がる可能性－、第 17 回ケータイ活用教育研究会、信州大学、2010. 8. 20

〔図書〕（計 1 件）

- ① 新関伸也、他、滋賀大学教育学部新関伸也研究室、学校における美術鑑賞のかたちと実践－『日本・西洋美術 101 鑑賞ガイドブック』を活用した鑑賞題材集（DVD 付）、2012

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新関 伸也 (NIIZEKI SHINYA)
滋賀大学・教育学部・教授
研究者番号：80324557

(2) 研究分担者

泉谷 淑夫 (IZUMIYA YOSHIO)
岡山大学・教育学部・教授
研究者番号：30263552

大橋 功 (OHASHI ISA0)
岡山大学・教育学部・准教授
研究者番号：70268126

赤木 里香子 (AKAGI RIKAKO)
岡山大学・教育学部・准教授
研究者番号：40211693

萱 のり子 (KAYA NORIKO)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：70314440

松岡 宏明 (MATSUOKA HIROAKI)
関西国際大学・教育学部・准教授
研究者番号：10321184

大嶋 彰 (OSHIMA AKIRA)
滋賀大学・教育学部・教授
研究者番号：90176868